

宇宙士官候補生



宇宙士官候補生 / *Home from the Shore* (1978)
／ゴードン・R・ディクソン（深町真理子訳）／
東京創元社（1/30刊・¥1,200）

イラストレイテッド・SFの第三集目。しかし、この題名と帯から想像する内容とは、少し違う物語である。海に棲み、陸の普通人とは体力も感覚も異なる海人たち——主人公ジョニー・ジョーヤは、彼らを理解しようとし、陸人に失望し、強引に訣別を進めようとする。だが、それは友人の離反をまねき、ついに陸人との戦いがはじまるのだ。

意外にも、ディクソン単独の長編、あるいは単行本としても、本書が初紹介になる。ディクソンの作風は、まず穏健、ストーリー・テリングもしっかりしており、中堅作家として、本来もっと翻訳されているべきだった。だが、そういう意味でも、これが初めてとなると、ちよつと問題がある。中途半端なのだ。続編と合わせて一つの話になるからだ（もっとも続編は、イラスト・ノヴェルではない）。主人公の心理や、ちよつとした描写に光るものが感じられる。しかし、代表作で日本でも受け入れやすい「ドーサイ・シリーズ」等が、まず翻訳されていれば、と思った。

このシリーズ、作家の名こそある程度揃っているものの、とにかく玉石混交だ。本書は続編が出るまで評価保留としたい。